

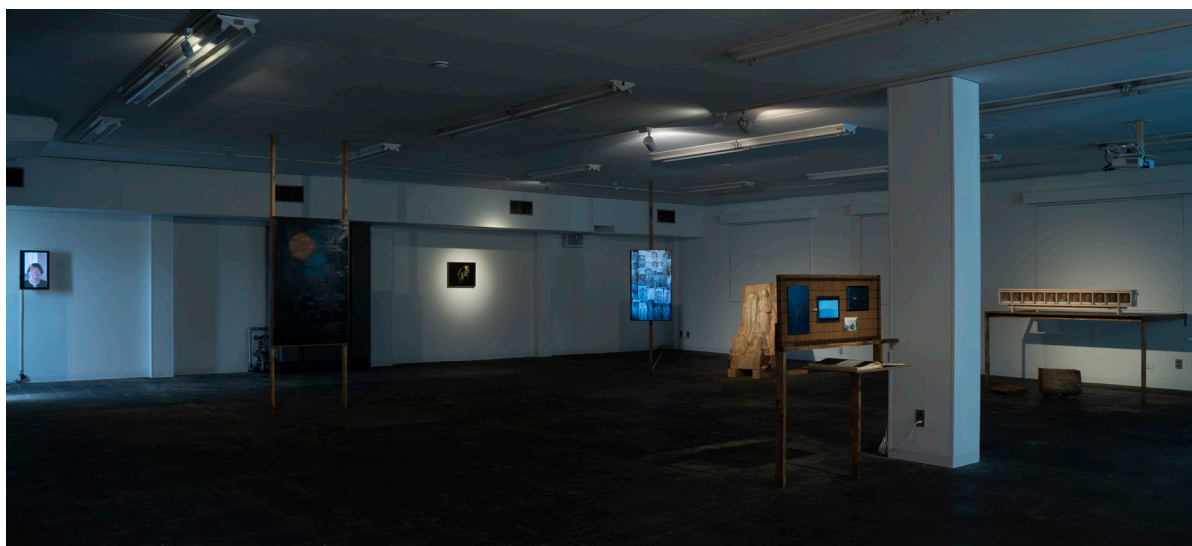
大阪・上町台地をめぐる現代美術展
「オルタナティブ・ロマン」

開催のお知らせ 第1弾速報

上町台地アートワークス実行委員会は、大阪市天王寺区を中心とする「上町台地」をテーマとした、複数アーティストによる地域調査・地域介入の結果を一堂に集め公開する現代美術展を開催いたします。

上町台地とは、最北端に大阪城、最南端に住吉大社をおき、標高 8~20m ほどの高台になっている地域を指します。ここでは、大阪市の大部分が海底にあった太古から人々が集住し、特に古代から中世における大阪の文化が集約され、豊かな文明を形成してきました。今でもその中心地には、日本で最初の官寺である四天王寺と、日本で一番の高層ビルであるあべのハルカスを、わずか 1km 圏内に隣接させるという古今が渾然一体となった景観を育んでいます。

このような特異な場所において、アーツサポート関西に設けられた「上町台地現代アート創造支援寄金」からの助成を受けたアーティストの制作やリサーチ活動が 2018 年以降、継続的に繰り広げられてきました。それらの取り組みの総体を、この 2022 年 10 月、一つの節目として、広く一般のみなさまに公開いたします。



参考画像：2021 年「アノ ヒダマリニテ」展示風景（主催：TRA-TRAVEL / 助成：アーツサポート関西 ASK「上町台地現代アート創造支援寄金助成」、一般財団法人おおさか創造千島財団「2021 年度創造的場づくり助成活動」 / 協力：浄國寺、真光院、心光寺、大覚寺、超心寺、イチノジユウニのヨン、柳本京子（敬称略、順不同）） / © Yukawa-Nakayasu、葭村太一

本展覧会コンセプト

大阪の上町台地ではこの数年、その特異な文化史へ呼応する形で、アーティストによる表現の実践が行われてきました。それらは、太陽の塔から続く巨大シンボル彫刻や、社会実装などのアートイベントや、大規模アートフェアといった、昨今の大阪で隆盛するアート企画とは全く異なるものです。この文脈を「あったかもしれない小説」(=オルタナティブ・ロマン)と位置付け、彼女 / 彼らが表現を通して史実や土地とどのように向き合ったかに迫る展覧会を目指します。

キュレーション：笹原晃平

開催概要（第一弾発表内容）

「オルタナティブ・ロマン」

会期 : 2022 年 10 月 12 日 (水) ~ 23 日 (日)

会場 : 阪口楼 (〒543-0063 大阪府大阪市天王寺区茶臼山町 1-30) ほか

時間 : 13:00~18:00

入場 : 無料

主催 : 上町台地アートワークス実行委員会、上町台地アートプロジェクト実行委員会

助成 : アーツサポート関西

参加作家 : 松田壮統、Yukawa-Nakayasu、ほか

キュレーション : 笹原晃平

ウェブサイト : <https://uemachiartworks.dcmnt.net>

SNS :

twitter : @ uemachiartworks

instagram : @ uemachiartworks

facebook : @ uemachiartworks

アーティスト紹介（第一弾発表アーティスト）

松田壯統（まつだ・まさのり）

1982 年 兵庫県生まれ。2009 年 東京芸術大学大学院 美術研究科 先端芸術表現専攻修了。2017-18 ポーラ美術振興財団 在外研修員としてアイルランドに滞在。2019-21 文化庁新進芸術家海外派遣制度研修員としてポーランドに滞在。阪神大震災によって目が覚めた時、目の前の壁はなく外からの大きな光が差し込む空間を体感。そのイメージを原点に 失った家の概念を探求している。家・太陽・魂などの象徴に潜り込み、みえない生命の流れを刻んでいく。2019 年にはポーランド日本国交 100 周年の展覧会（京都・ポーランド）に参加。

Yukawa-Nakayasu（ゆかわ・なかやす）

1981 年大阪府生まれ。歴史や習俗や習慣をもとに、社会や身体、日常に内在している営為や現象を視覚化する作品を制作。2018 年に The 12th ArteLaguna Prize 大賞受賞（Arsenale, ヴェネツィア）、2017 年に『Japanese Connections』（Nikolaj Kunsthal, コペンハーゲン）など。近年では、2019 年からアートハブ TRA-TRAVEL の共同代表を務め、2020 年『ポスト LCC 時代の』（京都芸術センター）のキュレーションを手がける。

※ 8 月下旬頃、第二弾アーティストを発表予定

キュレーター紹介

笹原晃平（ささはら・こうへい）

1984 年東京都出身、大阪府在住。2009 年 東京芸術大学 美術学部先端芸術表現科卒業。周辺環境への取材とその場の関係性の構築から出発し、インスタレーション作品制作および展覧会キュレーションをするアーティストである。主なキュレーション展に、『アーキテイルズ』（2012, Do a Front, 山口）、『スポンティニウス・ビューティー』（2017, 京都芸術センター, 京都）、『千島土地コレクション展 - TIDE 潮流が形になるとき -』（2022, Kagoo・千島文化・クリエイティブセンター大阪, 大阪）などがある。